



# RIKKYO SECOND STAGE

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、立教大学が提供する生涯学習の場です。RSSCは、RIKKYO SECOND STAGE COLLEGEの略称です。

## Contents

- P1 多彩な学びがある立教セカンドステージ大学
- P2 RSSCの10年を語る—そして新たな10年へ
- P3 2018年度本科入学者へのアンケート結果
- P4~5 本科ゼミナール紹介
- P6 専攻科ゼミナール紹介
- P7 課外授業・講演会紹介
- P8 立教大学ぐるめぐり(池袋キャンパス編)



発行：立教セカンドステージ大学  
 編集責任：野澤 正充 編集長：大木 茂  
 発行日：2018年9月25日  
 〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1



## 多彩な学びがある立教セカンドステージ大学

立教セカンドステージ大学学長 (立教大学総長) 郭 洋春



立教セカンドステージ大学の受講生の皆さん。

立教セカンドステージ大学での学びはいかがでしょうか。私は皆さんの学びを見ていないので、皆さんが立教セカンドステージ大学にどのような感想を持っているのか大変気になります。

一方で、私は皆さんの学部での学びの姿勢には

いつも感心しています。それは私が担当している全学共通科目の「多彩な学び」に、毎年立教セカンドステージ大学の受講生が履修できる数の上限まで履修しているからです。その履修している受講生の皆さんの姿勢を見ると、いつも最前列に座り教師の話にうなずきながらノートをとっています。またワークショップをやると、学部学生に交わりながら積極的に発言しています。そうした皆さんの学ぶ姿勢は、多くの学部学生に、学ぶ姿勢の本来のあり方を示してくれることで、大いに刺激になっていると思います。それは学部学生だけではありません。私たち教師も、その姿を見て立教セカンドステージ大学を開講してよかった、立教セカンドステージ大学の受講生に学部の授業を開放してよかったとつくづく実感しています。

立教セカンドステージ大学の特徴の一つは、多彩な科目群の展開とフィールドワークにあるといえるでしょう。皆さんが履修する「第1群 エイジング社会の教養科目群」、「第2群 コミュニティデザインとビジネス科目群」、「第3群 セカンドステージ設計科目群」は40科目以上が配置されています。それ以外にも「オムニバス講義」と「ゼミナール・修了論文」が配置されています。

これだけ多彩な科目が配置されており、自由に履修することができる立教セカンドステージ大学ですが、私たちはこれに安住することなく、さらに充実した科目を配置したいと考えています。

特に多くの教師が交代で担当する「オムニバス講義」は、多くの受講生の皆さんに一人でも多くの教師の専門分野を聞いてもらいたいという熱意から生まれた科目です。さらに「ゼミナール・修了論文」は、学部でも卒業論文を必修にしていないところが多い中で、教師は一人一人の論文の完成に真剣に取り組んでいます。その熱情は学部以上であるといっても言い過ぎではありません。

そうした教師の熱意を引き起こしているのは、立教セカンドステージ大学の受講生の皆さんのやる気にほかなりません。従って、立教セカンドステージ大学の内容が充実するも停滞するも、ひとえに受講生の皆さんの熱意にかかっているといってもいいでしょう。教師と受講生が共に作る立教セカンドステージ大学。これこそ本学が社会に対して誇る学びのあり方なのです。

# RSSCの10年を語る—そして新たな10年へ

立教セカンドステージ大学は、2008年の設立から今年で10周年を迎えました。そこで設立当初のゼミのみならず、2018年度のゼミも担当されている4人の先生方に、この10年を振り返り、新たな10年へと踏み出すRSSCへの思いをご寄稿いただきました。

## 「だーれが生徒か、先生か」、教える楽しみと醍醐味 上田恵介



2017年 清里ゼミにて

セカンドステージ大学は今年で11年目を迎えた。私はRSSCに立ち上げの時から関わっているから、お付き合いは12年目。本科、専攻科あわせて10クラスのゼミを担当してきた。それを振り返れば「とても面白かった」の一言につきる。若い学生や院

生たちと議論しているのも楽しいが、RSSCにはまた別の意味での楽しさがあった。ゼミには年ごとにいろいろな人たちが入ってくる。さまざまに異なるバックグラウンドを持った人達だ。専業主婦もいれば、一般企業に勤めていたサラリーマン、大会社の重役経験者、海外赴任の長かった人、弁護士から大学教授まで、本当にバラエティに富んでいた。だがゼミで一緒になって議論していると、そういったものは全部吹き飛んでしまう。過去の肩書きは関係ないのだ。もちろん教員とゼミ生との垣根もない。「だーれが生徒か、先生か」である。これが私にとって、セカンドステージで“教える（教えられる？）”楽しみであり、醍醐味である。

## セカンドステージこそ本舞台—つづく学校の実験 千石英世



映画「あるいは佐々木ユキ」（2013年公開）出演

これまでの10年は果敢な実験でした。成算あるやなしやの思いを抱いたままの船出でした。とはいえ世界にこうした実験的教育機関の歴史がないわけではない。パウハウスやブラックマウンテンといった芸術系、あるいはニュー・スクール・フォー・ソーシャルリサーチといった人文

系、またカリフォルニア大学バークレー校付置の実験教育課程といった教養系（なかには途中で挫折しているものもあります）、わが国では明治時代の萩の舎塾などもそうした実験学校だったのではないのでしょうか。わが国、初期近代における女性教育の実験校です（例の樋口奈津（一葉）さんが通ったところ）。

生涯のファーストステージは、あくまでセカンドステージへの準備段階であって、このセカンドステージこそが生涯の本舞台、そう考えて、自由闊達、活力充溢で学びたいことを学び、発信したいことを発信する、そんな時代がようやく来たわけです。かくて立教セカンドステージ大学の実験はつづくわけです。

## 「ともに」学び、新しい関係を作っていこう 北山晴一

ことは設立11年目に入り周年事業が始まっているが、かつて設立の趣意書（2007年5月）を書いた人間のひとりとして、当時の思いを振り返ってみた。趣意書にはこうあった。

曰く、「目的は、個人的な学びの行為が社会的な実践ともなりうるような知の回路を発見する場をともに創っていくこと」、曰く、「いわゆるシニア世代とそれに前後する各世代の男女が自らの生きる意味と、他者とともにあることの意味をじっくり考え、（中略）真の「市民」として生きていくには何が必要かを真剣に学びあう」……。ちなみに、この先の段落には、「学部・大学院の支援と協力のもとに、（中略）現代社会にたいして知の世代間交流のモデルを提供する」とも書かれていた。（傍線筆者）

見ての通り、RSSCの中心理念は、みなさんが「ともに」学び合う中で新しい人間関係、新しい社会関係を作っていくことにあります。その意味で、この立教での日々の集いが、みなさんの生涯の語らいの緒となっていくことを願ってやみません。



2009年の撮影写真

## 多様な活動と成果の10年、更なる進化を 坪野谷雅之

立教セカンドステージ大学（RSSC）の創立10周年は、私にとって長いようで短い歳月でした。団塊の世代8百万人が定年を迎えるに際し、立教大学の社会的責任の一環として、設立準備の先生方と叡智を集めて立ち上げたのですが、今や全国的にもユニークな生涯学習の場となりました。受講生は“学びの情熱尽きることなく！”をモットーに、人生の振り返りとこれからの生き方をじっくりと見つめ直し、再チャレンジする貴重な時を過ごしています。

21世紀の生涯学習の先駆者として、社会の要請と受講生の要望を取り入れ毎年革新性を高めています。「社会貢献活動サポートセンター」は代表的な実証です。現在13の研究会で約380名の在校生・修了生が研究・演習・実践に励み、更に多くの個人やNPOも活動に携わっています。昨年11月に編纂した『RSSC社会貢献活動の軌跡～勇気ある一歩』で紹介される活動の多様性と成果は注目に値します。RSSCは今後とも理想的な総合生涯学習機関を目指してますます進化していきます。



2008年第1回RSSCゴルフコンペにて（後列右端）

## 2018年度本科入学者へのアンケート結果

2018年4月に本科に入学した99名にアンケートを行い96名から回答をいただきました。項目により未回答者がいますので、合計が96名にならない場合があります。

### ○男性・女性の人数

	人数
男性	51
女性	45
合計	96

### ○通学時間

	人数	構成比
30分以下	10	11%
60分以下	50	53%
90分以下	26	27%
120分以下	6	6%
121分以上	3	3%
合計	95	

### ○仕事をしていますか

	人数	構成比
はい	31	33%
いいえ	64	67%
合計	95	

### ○年齢構成

	人数	構成比
50～54歳	10	11%
55～59歳	6	6%
60～64歳	37	39%
65～69歳	25	27%
70～74歳	14	15%
75～79歳	2	2%
合計	94	

平均年齢は63.4歳

### ○通学日数/週

	人数	構成比
1日	0	0%
2日	4	4%
3日	37	39%
4日	47	49%
5日	8	8%
合計	96	

### ○仕事をしている方の日数/週

	人数
1日～2日	13
3日	2
4日以上	16

### ○住まいは

	人数	構成比
東京都	53	55%
埼玉県	20	21%
神奈川県	13	14%
千葉県	6	6%
群馬県	2	2%
茨城県	1	1%
山梨県	1	1%
合計	96	

### ○入学目的(複数回答)

	構成比
教養・生涯教育	80%
これからの生き方探し	61%
人との出会いネットワーク作り	51%
専門分野の学習	15%
規則正しい生活	14%
居場所を求めて	8%
その他	10%

### ○ボランティアをしていますか

	人数	構成比
はい	20	21%
いいえ	75	79%
合計	95	

### ○ボランティアをしている方の頻度

	人数
週3日以上	4
週1～2日	10
月1～2日	5
未記入	1

### ○入学してよかったこと(複数回答) (自由記述欄)

	人数	
授業内容	74	①授業内容 「内容が濃く満足」「自分の知らなかった分野を知ることができる」など、RSSCの授業の広範さ、高水準に満足するものが14件あった。その中には「教授との出会い」を挙げるものもある。また、全学共通科目について「興味のある科目が履修できる」「緊張しつつも刺激を受ける」など、RSSCの特徴の一つと捉える記述が多い。
図書館等施設利用	69	
人との出会い・ネットワーク作り	52	
②出会い・ネットワーク	「新しい仲間」や「ゼミでのコミュニケーション」がよいと記載したものが21件あり、「前向きな人との出会いが今後の財産」「人とのふれあいでやる気が」などの理由が記載されている。	
③その他	立教の施設の素晴らしさ7件、学生生活をできる喜び9件などとなっている。	

### ○自由意見(苦勞していること・RSSCへの提言等)

64名(複数項目の方含む)の記述あり。大別すると、①学生生活に関すること(通学の問題含む)16件 ②RSSCへの改善意見・提言21件 ③ゼミ・修了論文に関すること15件 ④その他14件となっている。

①学生生活	「当初、生活リズムを築くのに苦勞」「通学がづらい」など、長年の習慣から新たな生活習慣に馴染むのに苦勞しながらも、「今では、リズムも大分安定」「徐々に授業が楽しくなる」など、ここに来て生活リズムが安定することを記載するものが多い。
②改善意見・提言等	「よくできたカリキュラムである」「全学共通科目はよい」と評価する一方、「学部生・若い先生などとの交流がもっとあればよい」「外部講師の招へいなど選択科目をもっと魅力的に」などの改善意見が寄せられている。また、「入学時の受講科目の説明がもう少し欲しかった」「夏期集中講義は4月ではなく、じっくり考え予定を立てやすくするため6月頃の登録を」などの要望がある。
③ゼミ・修了論文	修了論文を書き上げられるかの不安や、負担を感じている方がいる一方、ゼミでの先生の指導で「修了論文を書く自信がついた」「ゼミや論文準備を通じ嫌いな分野に興味を持つことができた」との回答もあった。ゼミでは修了論文指導以外の内容があってもよいのではとの意見もある。
④その他	事務局の丁寧な対応に感謝するとともに「ラウンジが手狭である」「掲示板を見易くして」などの要望もある。

# 本科ゼミ

立教セカンドステージ大学では、ゼミナールにすべての受講生が所属し、経験豊富な先生方による指導のもと、それぞれ独自の方法で活発な運営がなされています。修了論文作成のみならず、楽しく元気に学んでいこうという雰囲気にあふれています。

## 北山ゼミ 私たち出会ったね



RSSCがなかったら決して出会うことのなかった私たち12名(男女それぞれ6名)。4月に「初めまして」を交わし約2カ月が経った今、お互いをニックネームで呼び合い、まるで長年の友のように

良き仲間です。モットーは「よく笑いよく学べ!」。

ゼミでは北山晴一先生のご指導のもと修了論文の書き方を一から丁寧に教わっています。

北山先生は社会学、社会デザイン学、比較文明学、歴史学がご専門ですが、幅広いジャンルに深い知識をお持ちで、どんなテーマを投げかけようとする確にゼミ生たちを導いてくださいます。毎回90分のゼミがあつという間です。

課外活動では、「初夏の遠足」「全員参加のピアノの連弾」「飲み会」「お誕生会」と多彩なお楽しみ会を通して絆がどんどん深まっています。掲載の写真にも先生とメンバーの笑顔があふれているでしょ。奇跡のような出会いに感謝しつつ北山ゼミは前進します!

## 栗田ゼミ フィールドワークにこだわる

ご指導頂いている栗田和明先生は文化人類学がご専門で、その研究のため東アフリカで2年間現地の方々と一緒に生活するなど、フィールドワークを重視されています。2011年には『アジアで出会ったアフリカ人』という著書も執筆なされ、先生の活動範囲はアフリカに留まらず、アジアにも及んでいたことも分かります。

その栗田先生のご指導を仰ぐべく、集った12名で栗田ゼミは構成されています。男女6名ずつで、年代的には50代2名、60代8名、70代2名です。経歴は千差万別で、救急救命に携わっていた方、ケアマネージャー、病院勤務者、一般企業出身者、専業主婦と様々です。

修了論文のテーマも、「セクハラ」、「孔子」、「スペイン音楽」、「再生可能エネルギー」等々、経歴同様まさに様々ですが、栗田先生のフィールドワークにこだわるスピリット



を共有して、毎回のゼミでは熱く議論を行っています。ゼミ後に行われる懇親会で更に交流を深め、実りあるゼミライフを送れたらと思っています。

## 黒木ゼミ

### お互いの個性を尊重してチャレンジ!



経済学がご専門の黒木龍三先生率いる「黒木ゼミ」は、メンバー総勢12名(男性7名、女性5名)です。50代から70代までの幅広い、経験豊かな、個性のある、元気な仲間たちです。

ゼミでは、毎回、それぞれ自分の修了論文のテーマについて発表します。メンバーはそのテーマについて自由に発言し、意見を述べます。最後に先生からコメントをいただきます。はじめは慣れない議論に戸惑いながらも、徐々にいろいろな意見が出て盛り上がり、それぞれのテーマについて理解と認識が深まります。

ゼミの回数を重ねるごとに、メンバーの相互の親睦や交流も深まってきました。毎月1回ゼミの後で、懇親会を行っています。みんな打ち解けてワイワイガヤガヤ、とても和やかな雰囲気、楽しいひと時を過ごしています。これからも自由な発想のもと、意見を出し合い、お互いの個性を尊重しながら、刺激あつて、それぞれのテーマにチャレンジしていきたいと思っています。

## 鈴木ゼミ

### 明るく、楽しく、アカデミックに行こう!

私たち鈴木ゼミは、鈴木正男先生のもと男性6名、女性6名の計12名です。全体の雰囲気としては、先生の醸し出すアカデミックの中にもユーモア溢れる会話に引き込まれて、楽しく和やかな様子で進行しています。ゼミ生も個性的な人が多く、お互いに程よい距離感を保ちながら発表や討論を行っています。ゼミ生の中に先生の専門分野である人類学に関する修了論文を目指す人がいるのも先生の人気の表れと思います。

また、先生は立教大学原子力研究所に長年携わってこられました。研究所の設立から数々の功績、そして廃止措置に至るまでをゼミ生は興味深く拝聴しています。

鈴木先生の温かいご指導のもと、メインの修了論文に向けて、テーマ設定から方針、研究手法、文献検索等にての



発表、討論、質疑が進められています。要所でこやかな笑顔とともに先生より事例・参考文献等々の示唆があります。提出に向けて、明るく、楽しく、アカデミックに!

# ナール紹介

各自が関心のあるテーマについて修了論文を書き上げていく際には、各ゼミ生からのこれまでの貴重な経験、意見、考え方も参考になります。ゼミ生同士の親交が深まっていくことも今後につながる大きな楽しみです。

## 千石ゼミ

「千石丸」ただ今航海中！

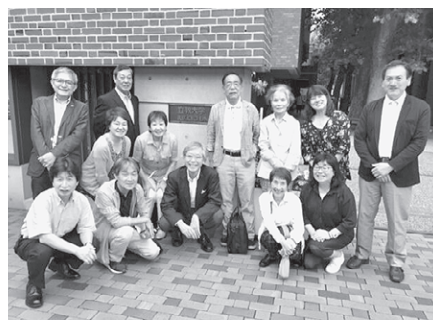


「もう一度心ゆくまで勉強したい」「今までの生活を一変したい」「残された人生を有意義に生きる方法を学びたい」「一緒に集う仲間が欲しい」・・・様々な希望を持って集まった13名、クルーとして千石英世船長率いる「千石丸」に乗り込む事になりました。海外生活を経験した人、大変な読書家、外資系会社で苦勞した人、毎日4時間通勤していたサラリーマン、アクティブな主婦など、まさに様々です。

ゼミでは先生から修了論文の方向性を聞かれて四苦八苦、C・アヴリーヌの「ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ」を課題に与えられて悪戦苦闘。でも、先生の知識の豊富さや滋味深いコメントに驚き、やさしさに感動しながらゼミを進めています。ゼミ後の飲み会も盛り上がっています。クルー共通の不安は「修了論文が書けるか否か」、共通の感想は「RSSCは楽しい」。さて「千石丸」、様々な困難を乗り越え見事目的地にたどり着くことができるでしょうか？ これからの航路が大変楽しみです。

## 成田ゼミ

楽しく学び・大いに語り・よく飲み！



厳しき中にも優しさとあたたかさを秘めた社会学専門の成田康昭先生のもとに集いし、精鋭12名（女性6名・男性6名）の強者達。ゼミ初日に修了論文のスケジュールを聞き、驚愕している私たちをご心配なさってか、最初にご指示されたのは、懇親会の日時と場所決めでした。

その時の成田先生の一言。

「この時間こそが先の長い大切な友を作る時間になります」と。美味しい料理とワインに胃袋と心をわしづかみにされ、まさに12名がひとつになった瞬間でした。それぞれの人生でそれぞれの時間を送ってきた私たちがこれから1年、思い思いの講義で学び、大いに語り、そしてよく飲む。素晴らしいかな人生、楽しきかな再びの青春。その想いをこの緑多き立教キャンパスのもとで12名の仲間と共有し論文作成の糧として1年を過ごし、皆でセカンドステージを謳歌して親睦を深めていきます。

## 野田ゼミ

「違和感から発見へ」学び直しのメソッド

野田ゼミは、女性6名と男性7名の仲間。経歴や興味などは大きく異なり、どう纏まるか不安からのスタート。野田研一先生は4月第1回ゼミから修了論文の年間予定を提示され、想定以上の前倒しで各自大急ぎでテーマ探し開始。先生はアメリカ文化、環境文学研究の第一人者で著作されてきたテーマは難解？これは厳しい指導になるかと心配。

しかし、メンバーそれぞれ個性的な修了論文テーマを自由に報告するなかで、先生はまず、「おもしろい」「いい着想」と肯定的に褒めてやる気を引き出した上で、疑問や検討課題について「違和感から発見へ」繋がる助言をいただきました。ゼミ後は月例飲み会で、飲み放題・話し放題で親睦を深め、「RSSCで野田ゼミ男性陣が一番若々しい」



「野田ゼミ女性陣が最高素敵」と褒め合い、ゼミ課外活動もアクティブに充実させています。

## 渡辺ゼミ

リベラル・アーツ：己を探求する



渡辺ゼミは、男性7名、女性6名、総勢13名のメンバーで構成されています。年齢、経歴、興味や修了論文テーマも全く異なる個性豊かな集団です。

渡辺信二先生のご専門は、アメリカ文学・日米比較です。小柄ですがファイトは満々、「リベラル・アーツ：己を探求する」。

本ゼミは①問題の本質を論理的に解明するための思考力②幅広い知識と教養を有し、己の行動を批判的に内省し、実践できる力③異なる文化を持つ人々と適切な人間関係を構築し、協働できる力を身に付ける事を念頭に置き先生にご指導を頂いています。

新しい価値観を受け入れるのは大変です。各自の学習研究意欲は旺盛で、長年社会で実践に基づいた問題意識に毎回驚きの連続です。立教セカンドステージ大学に入学し、先生方、ゼミ、同期の仲間との出会いに感謝し、この学びが各自の人生に於いて有意義な一コマとなるよう大切に過ごしたいと思います。

# 専攻科ゼミナール紹介

本科修了後、専攻科に進み、さらに勉学を続けている42名のゼミ紹介です。

## 上田ゼミ 天空のひばり雲雀が如く我ら人生を謳歌



鳥類の研究で有名な上田恵介先生のもと、男性6名、女性3名で学んでいます。私たちの強みはチームワークの良さです。小学校のクラスのように、それぞれ役割が決まっています。ゼミ活動や課外活動に至るまで、おのおのの能力が発揮されています。修了論文についても、本科で書いた経験をもとに、より良いものを書こうとお互いにアドバイスをしあっています。課外活動も盛んで、ゼミの後は毎週のように懇親会。話せば話すほど絆が深まっています。池袋演芸場の寄席も楽しみました。この出会いに感謝です。

## 高橋ゼミ 哲学の薫り漂う教室で

私たちは男性5名、女性2名のコンパクトなゼミです。穏やかな雰囲気メンバーながら皆キラリと秘めた個性を覗かせています。ゼミを率いる高橋輝暁先生はドイツ文学・哲学、日独比較対照文化学、教養論を研究される立教大学名誉教授です。

先生のトレードマークはポケットがたくさんのお茶目なベスト！さて2年目を楽しむ私達は、先生のユーモアと笑顔を交えた講義と笑いが飛び交う自主ゼミを重ねるごとに専攻科の面白さがかかってきました。時には教室の外に繰り出し、喜びを分かち合う大人な仲間達です！



## 加藤ゼミ 明るくそして自主的に

女性3名、男性6名、様々なキャリアを持つ人達の集まりです。担当の加藤睦先生は東京の下町育ち。歯切れの良いお話でゼミの雰囲気明るく盛り上げてくださいます。

ゼミ運営は基本的にゼミ生主体で行われます。まずは情報提供。ゼミ生各自の興味対象、研究対象等を発表、質疑応答を重ね視野を広げることを目的とします。

次は修了論文。本科にて厳しい課題をクリアし、余裕を持って論文作成に取り組んでいると思いきや、なかなか焦点が定まらず加藤先生の指導、ゼミ仲間からの助言を受けそれぞれの課題に取り組む毎日です。



## 坪野谷ゼミ 慈愛に満ちた眼ざし

女性2名、男性7名（平均67歳）の構成で4月19日第一回のゼミがスタートしました。坪野谷雅之先生がセカンドステージ大学の設立に参画され10年間大切に育ててこられた実績は、皆が周知しています。

中高年教育への先見性と情熱を併せ持つ教育者との堅いイメージでしたが、実像は温和で我々を慈しんでくださる姿勢に驚かされました。そしてゼミの教育方針は、先生主導ではなく、ドイツ語のErziehen（教育する）の語源となっている、Ziehen（引き出す）に近い自主運営を行っています。ゼミが待ち遠しい！！

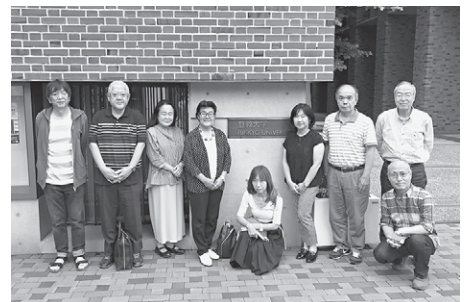


## 平賀ゼミ キラキラ輝くセカンドライフ

紅一点の平賀正子先生は言語学者であり英語がご専門、修了論文の指導が厳しいことでも有名です。ゼミのメンバーは男性が5名、女性が3名で50代～60代。その経歴は校長先生、広告代理店、海外駐在、大学職員、主婦と様々。

自主ゼミでは各自の論文テーマについて熱い議論を交わしていますが、ゼミ後の飲み会は和気あいあい。ワインを愛する平賀先生が加わるとワイン談義に花が咲きます。

7月は浅草散策、8月の清里合宿では、恒例？のお洒落な平賀邸訪問。キラキラと輝くセカンドライフを平賀ゼミ全員で楽しんでいます。



# 課外授業・講演会紹介

## フィールドスタディ グラウンドワーク三島研修 6月

渡辺豊博先生の科目「セカンドステージと市民生活」。授業の一環として「NPO法人グラウンドワーク三島」の現場研修。ゴミ捨て場と化していた源兵衛川の清流を蘇らせ、絶滅危惧種だった三島梅花藻（ミシマバイカモ）を再生させた市民活動。その源兵衛川に入ってゴミを拾ったり、各プロジェクトの現地を視察したり。そして夜はお酒を酌み交わしながらの語り合い。復活したホテルが光りながら飛び交うのを見ることができた。



復活した源兵衛川の清流

## フィールドワーク すがも平和霊園墓地見学会 6月

小谷みどり先生の科目「最後まで自分らしく」の超人気のフィールドワーク。

白山通り巢鴨4丁目交差点を入った所、お墓デパートの「すがも平和霊園」見学会。高野山真言宗功德院、松島龍戒住職によるお話。

すがも平和霊園には、個人墓地、永代供養合葬墓、インターネット墓、会員による共同墓等があり、この霊園のコンセプトは「ニューメモリアルコミュニティ（現代流縁づくり）」で、地縁・血縁による相互扶助が崩壊している現代への対応策としての「縁」づくり。見学後の「お清め」も満席。



功德院松島住職による講話

## 人生が変わる住まいと健康のリノベーション ～人生100年時代における幸福戦略～ 6月

太刀川記念館カンファレンス・ルームで開催の「RSSC10周年記念連続フォーラムI」。

加藤睦先生による開会の挨拶の後、甲斐徹郎先生（RSSC講師）による基調講演。長寿社会における住宅改修の設定は、人生に対しての設定であり、断熱改修によって暖かい住まいでの提言。

パネルディスカッションでは、北山晴一先生（RSSC講師）宿谷昌則氏（東京都市大学教授）小谷和也氏（建築設計事務所長）等各パネラーによる活発な討論が行われた。



## 人生を豊かにする 「学びのすすめ！ゆうゆう大学」 5月

月刊誌「ゆうゆう」編集部と立教セカンドステージ大学共催公開講演会。第1部は作家吉永みち子氏の特別講演「学ぶ楽しみ、学ぶ理由」。休憩後、竹田和由氏（順天堂大学准教授）による、NK細胞の活性化策等についての分かりやすい特別講演「身体を守る免疫反応」。

第2部は小谷みどり先生（RSSC講師）によるミニ講義。「PPK（ピンピンコロリ）知っていますか？明日Kできますか？」と強烈なイントロで始まり、ユーモアたっぷり、会場を沸かせた30分であった。



# 立教大学グルメめぐり (池袋キャンパス編)

## ①第一食堂 (本館奥)

第一食堂と言ったら「カツ丼」と言われるくらい有名です。立教大学の卒業生の間でもよく話題に上ります。「カツ丼」いくらだった?と聞くことで先輩・後輩の立場を知るバロメーターにもなります。1950年から「カツ丼」のレシピは変わらないそうです。修了までには一度は食べておかないと後悔すると思いますよ。



## ②アイビー (5号館地下)

シェフのお勧めは「坦々麺」。白ゴマを使った「白坦々麺」と、黒ゴマを使った「黒坦々麺」。ゴマがたっぷり使われていて健康にもよさそう。ピリ辛が食欲をそそります。「唐揚げ丼」もおすすめとのことでしたが、量的には若者向けかな? 「アイビー」さんには、ベーカリーもあり、焼きたてのパンが食べられます。



## ③カフェテリア山小屋(ウィリアムズホール2階)

「山小屋」の名称は1992年に取り壊された部室棟の愛称「山小屋」から来ています。お勧めは「オムライス」と「油淋鶏(ユウリンチ)」とのこと。どちらもさっぱりとした味わい。「オムライス」の卵はとろとろしていて美味。「幻のタンドリーチキン」は、別名「シェフの気まぐれ」、出会えたらラッキーです。



## ④TULLY'S COFFEE (12号館1階)

学食とはイメージが違いますが、食事をするなら4種類用意されている「パスタ」。1品ずつ定期的に入れ替わります。ドリンクも季節ごとの限定品が登場するそうですので、図書館の帰りに顔を出したいですね。スイーツ関係ではワッフルがふわふわで美味しかったです。もちろんケーキもありますが数は少なそう。早い者勝ちかな。



## ⑤日比谷松本楼 (セントポールズ会館)

大学生の利用は少なく、卒業生や保護者の方、教職員、そしてRSSCの受講生が多く利用しているそうです。店内も落ち着いた大人の雰囲気。おすすめは「カレーライス」と「オムライス」。「オムライス」には4種類のソースが用意されていますが、そのうちの2種類を選べる「オムレツライス2色ソース」が欲張りな方にはぴったりかも。



## ⑥9号館食堂 (9号館1階)

運営は「第一食堂」と同じです。でもメニューの品ぞろえは「第一食堂」とは異なっています。おすすめは「スタミナ丼」と「関西風肉玉うどん」。「スタミナ丼」はボリュームが多すぎるかもしれませんので、やはりうどん系がいいのかな? 取材時に食べた「特撰うどん」はイタリアンでした。



④

◆◆◆グルメめぐり地図◆◆◆

5号館  
②地下

立教通り

正門

図書館・12号館

本館

幹線の径

14号館

4号館

8号館

11号館

ウィリアムズ  
スポール

③2F

9号館

⑥

マキム  
ホール

第一食堂

①

セントポールズ  
会館

## 編集後記

今回の目玉はRSSC10周年と立教大学の食堂紹介です。郭学長、4人の先生方の思いを理解いただければ幸いです。食堂もこの記事を参考にぜひ行って味わってください。

今回苦労したのは写真です。特に4人の先生方に思い出に残る写真を頼みました。若々しい写真を見て思わず微笑んでいました。自分の10年前に思いをはせ、こうして立教のキャンパスで出会えた事に感謝です。



後列左から 林野 均 川地 雅文  
吉田 敏英 吉本 亮三 湯尾 洋之  
前列左から 青木 佳代子 三上 隆由  
渡辺 信二先生 大木 茂